



阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター

2021 7月号



ウナギの話

ラジオ番組「武田鉄矢今朝の三枚おろし」で、また大変興味深い話がありました。スウェーデンのパトリック・スヴェンソン著「ウナギが故郷に帰るとき」をもとにお話しされた、ウナギの話。



私の故郷 静岡は、ウナギの養殖が盛んで、帰省すると必ずうなぎ屋でうなぎ重を食べます。日本では土用の丑の日にはウナギを食べる食文化があり、私たちに身近なものです。

ウナギの養殖は、稚魚のシラスウナギを捕獲し、それを養殖場で育てるのだそうです。

調べてみると、2010年、世界で初めて日本で、人工的にふ化させたウナギを成魚に育て卵を取り出し、さらに人工ふ化させて二代目をつくる「ウナギの完全養殖」に成功したそうです。しかし大量に育てることは難しく、市場に出るには到底至っていません。私は、人工的に卵をふ化させるところからの養殖もできるものと思っていたので、驚きました。

受精卵からふ化した仔魚をシラスウナギに育てるまでが大変難しいそうです。仔魚にいろいろな餌を与えてみても全く食わず、試行錯誤の末、サメの卵なら食べることがわかったものの、それでも死んでしまい、シラスウナギに育たない。完全養殖までの道のりは長く、成功までには何十年もかかっています。

2019年11月には、近畿大学水産研究所がウナギの人工ふ化、50日の初期飼育に成功したと発表しています。しかし、2020年4月までに全滅してしまったとのこと。その後も、実用化をめざし、研究・飼育を継続されているそうです。

ウナギは謎の多い魚類で、誰もウナギの卵を見たことがない、どこで繁殖しているのかもわからない、アリストテレスの時代から、多くの科学者によってウナギの生態、その一生が研究されてきたそうです。

ウナギの性別についても、メスなのかオスなのか判別できず、調べ始めてから100年以上も経った後に、ようやく判明。生まれた時は性別が決まっておらず、成長の途中で（体長約25cmの頃）分化するのだそうです。しかし、どのような環境で性別が決定されるのか、明確にはわかっていないそうです。



また、天然では、性比はほぼ1:1なのに、養殖では、9割以上がオスになる。先日、テレビで見たのですが、愛知県の研究所で、養殖ウナギに大豆イソフラボンを含む餌を与えることにより、9割以上をメスにすることに成功しているそうです。完全養殖の産卵用としてウナギをメスにする従来の技術を参考に、食品由来の大豆イソフラボンに着目したのだそうです。大きなサイズに成長させても、身が柔らかく、おいしいウナギにでき、限りあるウナギ資源の有効利用が期待できるとのこと。

8月号に続くー

阪神カウンセリング・ラボ

<https://www.hanshin-cl.com/>

* 梅田相談室

〒530-0014

大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910

Tel/Fax 06 - 6147 - 2533

E-mail hanshin-cl@star.ocn.ne.jp

* 明石相談室

〒673-0891

明石市大明石町1-7-4 白菊グランドビル512

Tel 078 - 917 - 6880

